project 5

芝浦アーバンデザイン・スクールプロジェクト

PROJECT MEMBER

〈代表者〉　デザイン工学部　デザイン工学科　教授：前田英寿

〈構成員〉　デザイン工学部　デザイン工学科　准教授：桑田仁

芝浦アーバンデザイン・スクール（以下、アーバンデザイン・スクール）は大学と地域が連携して都市の魅力を再発見・再検討するプロジェクトである。環境保全、安全安心、持続経済など都市のあり方がいま問われている。学びを通して地域の可能性と課題を探ることを目的としている。開かれた場になるようにまちづくりの国際用語アーバンデザインUrban designを用いている。

アーバンデザイン・スクールは教育、研究、社会貢献が連動するように次の3つの学びを大学と地域の間で進めている。①交流型演習：地域の空間資源を題材にその活用を検討する建築都市計画演習、②双方向型研究：行政機関や住民団体の協力を得て成果を還元する調査研究、③多世代共学：まちづくりに関する公開講座や各種媒体による情報発信。

初年度2013年度のアーバンデザイン・スクールはデザイン工学部デザイン工学科建築・空間デザイン領域が東京都港区と連携して特に芝浦・海岸地区で活動した。この地区は都心と港湾の間にあって運河を介して新旧が混在する独特の界隈を形成している。芝浦工業大学発祥の地であり、デザイン工学部が本拠を置く芝浦キャンパスの地元でもある。地域に関わる方々と意見交換しながらプロジェクトを起動した。

2013年度 活動の成果

教育

アーバンデザイン・スクールはまちづくりに必要な次の3つの力を学生が身につけることを教育の目標としている。①社会の中で価値を持続する建築と空間を見抜く発見評価力、②社会の中で価値を持続する建築と空間を考案し創造する企画設計力、③様々な主体と協力して力を発揮する対話協働力。これら3つの力を備えた学生が社会に出て行政やNPO、建築都市開発事業、大学院等研究機関といった公民学各方面で活躍することを期待している。

教育活動の柱は大学の建築都市計画演習を地域と交流しながら行なう“交流型演習”である。地域の空間資源を題材に行政機関や地元団体と意見交換しながら演習を実施し、展覧会や発表会によって成果を公開し社会に還元する。学生の視野拡大はもとより学外の方々が学生の提案を見て都市の可能性を再発見することも期待している。

2013年度はこの交流型演習をデザイン工学部デザイン工学科「プロジェクト演習8」で実施した。これは同学科建築・空間デザイン領域3年後期における実質的な必修科目であり、3年生ほぼ全員37名が履修した。大学から徒歩10分に残る戦前の木造建築「旧協働会館」を取り上げ、視察調査にもとづいて現状模型を製作し、活用に

向けたアイデアとデザインを3ヶ月かけて検討した。最後に成果を模型とパネルにまとめ、学期末の研究報告週間で全員分を本学芝浦キャンパス玄関ホールに展示した。来場者による投票上位者は公開形式の発表会で自身の作品を学内外の参加者に説明した。学生は地元の歴史的建築物を通して木造技術の詳細を学ぶことができた。学外の方々は学生の作品を通して地域の過去から未来へ思いを馳せたのではないだろうか。

研究

アーバンデザイン・スクールは次の3つの方法で対象地域の課題を見える化することを研究の目標としている。①対象地域の現状を模型・図面・写真によって視覚的に表現する、②対象地域が持つ可能性を建築・空間のデザインを通して検証する、③他地域との比較を通して対象地域の課題を相対化する。これら3つの見える化の過程で、建築と空間を参照可能な形で記録する、建築都市開発事業に指導助言を与える、他地域と交流関係を築くといったまちづくりの調査研究機能をアーバンデザイン・スクールが備えることを期待している。

研究活動の柱は大学と地域の行政機関や住民団体が協力して行なう“双方向型研究”である。踏査・視察、文献・ヒアリングの各調査、図面・模型によるデザイン検討、ワークショップやシンポジウム、専門家の助言指導を含む。各段階で大学と地域の行政機関や住民団体が情報交換し、研究が社会貢献につながるか点検する。展覧会や発表会によって成果を公開し社会に還元する。

2013年度はこの双方向型研究をデザイン工学部デザイン工学科の学生・教員有志と都市デザイン研究室(教授:前田英寿)が実施した。まず学生7名と教員2名が「都市の座」をテーマに地元団体にヒアリングし、まちあるきを行なって成果のパネルを展示した。都市デザイン研究室は4年生「総合プロジェクト」と修士課程「空間デザイン研究」の一環として対象地域の都市模型と建築変遷図を作成した。4年生2名が卒業制作に対象地域を取り上げた。前田英寿と桑田仁が東京都港区と同じアジアの首都であるバンコクと現地の大学を訪問調査した。地域に密着して活動する一方で、上記のように地域を俯瞰し他と比較する学術的な基礎研究も大切にしていきたい。

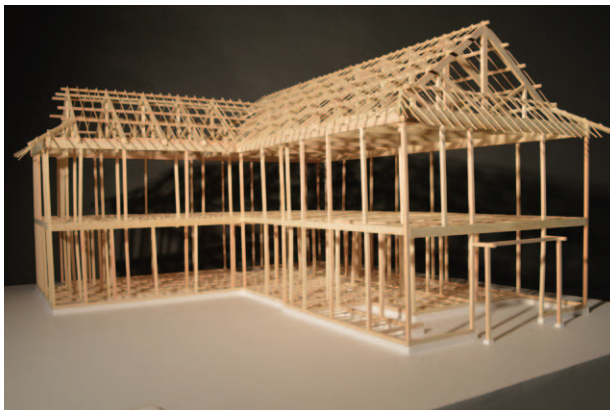
社会貢献

アーバンデザイン・スクールは次の3つの面から大学と地域の多世代がまちづくりを共に学ぶ機会を設けることを社会貢献の目標としている。①住民・行政・企業・学生が同じ場に集まって議論する、②大学の成果を開示して地域の反応を教育研究にフィードバックする、③まちづくりの手法や動向を大学と地域が共有する。これら3つの面からアーバンデザイン・スクールの活動が大学と地域の双方に定着することを期待している。

社会貢献活動の柱は公開講座と情報発信による“多世代共学”である。公開講座は受講を学内外・地域内外に開き、学びを介した交流の場にする。初期は座学とし、段階的にまちあるきやワークショップ、環境教育や職能訓練など方法と対象を広げたい。情報発信では作品の展覧会、専用ホームページ、行政機関や地元団体への報告会など複数の媒体を通してアーバンデザイン・スクールの過程と成果を多くの方々に知っていただく。

2013年度はこの多世代共学を一般向け公開講座と学生向け特別講義で実施した。公開講座の広報を兼ねて早々にアーバンデザイン・スクール専用のホームページを立ち上げ、教育・研究・社会貢献それぞれの様子を逐次発信した。学期末には研究報告週間としてアーバンデザイン・スクールの2013年度成果を展覧会と発表会で公開した。このような開かれたコミュニケーションがわが国の建築都市計画には不足している。多岐に渡る技術や知見を咀嚼し表現し伝達することは大学が社会に向けて果たすべき大きな役割に違いない。

地域の空間資源から学ぶ交流型演習



旧協働会館の構造模型

本学芝浦キャンパスから徒歩10分に残る旧協働会館を題材にデザイン工学部デザイン工学科「プロジェクト演習8」で建築・空間デザイン領域3年生37名が木造建築の活用を検討した。

①旧協働会館の調査

旧協働会館は1936年花街の見番として建築され、港湾労働者の宿泊所に使われた後に2009年港区が取得し翌年文化財に指定した。洋小屋トラスの木造建築で無柱の大広間が当時の盛況を偲ばせる。現在閉鎖中の館内を港区芝浦港南地区総合支所の案内により見学し、4名～5名1組で軸組図を参照しながらで縮尺1/30の構造模型を製作した(2013年11月)。

②旧協働会館の活用案

一般市民が使うためのアイデアを設定し、それに応じる空間と木構造を生かすデザインを検討した。雑壁を除いて木軸を表す子どものための公園建築、庭に開架書庫を増築して既存の木造部分で閲覧する図書館、1階2階を吹き抜けにする飲食店など様々なデザインが出た(2013年12月)。

③展覧会・発表会

旧協働会館の活用案を模型とパネルにまとめ、学内の講評会を経て本学芝浦キャンパス玄関ホールに1週間展示した。来場者には気に入った作品に投票してもらった。最終日には住民や行政など地域の方々を招いて公開形式で発表会を行なった(2014年1月)。

都市の活力を捉える双方向型研究

港区芝浦・海岸地区の模型

芝浦・海岸地区を調査研究するとともに、同じくアジアの首都であるバンコクと現地の大学を訪問調査し、彼我を比較しながら水辺都市の課題と可能性さらにはアーバンデザイン・スクールのあり方を考察した。

①都市の座ワークショップ

デザイン工学科学生7名と教員2名が「都市の座」をテーマに芝浦・海岸地区のフィールドワークとプレゼンテーションを行なった。地元でまちづくりを推進する芝浦運河ルネサンス協議会事務局長にヒアリングしてからまちあるきに出かけ、道路高架下、公開空地、運河沿い遊歩道など都心と港湾の中間にある独特の「座」を発見した(2013年11月)。

②芝浦・海岸地区の基礎調査

デザイン工学科都市デザイン研究室が芝浦・海岸地区を題材に水辺都市の建築と空間を調査した。都市模型と建築変遷図を作成して地区の経緯と現状を把握した。4年生2名が卒業研究で運河沿い街区を取り上げ、オフィスの協調建替えと都心型共同住宅を計画した。学生の自由な発想を通して現状の運河沿いが未活用であることが改めて浮き彫りになった(2013年10月～2014年3月)。

③タイ・バンコク訪問調査

前田英寿と桑田仁が港区と同じ水辺の都市バンコクを訪問調査した。現地の専門家の案内で水上交通を体験し、移動と観光における運河の可能性を再確認した。

バンコク中心部にあるチュラロンンコン大学を訪問、日本のアーバンデザインについて講演して技術交流を図り、同大が運営する都市開発・まちづくりセンターで首都都心における大学と地域や企業との連携について意見交換した(2013年11月)。

地域を客観視する公開講座

東京都港区を念頭に水辺の都市に関する公開講座を3回行なった(11月28日、12月5日、12月12日)。木曜18:30 ～ 20:00、会場は芝浦工業大学芝浦キャンパス3階教室。デザイン工学科前田英寿と桑田仁が司会を務めた。毎回満員の会場から質問が活発に交わされ、終了時間を延長した回もあった。アンケートによる満足率は毎回90%を越えた。

第1回 バルセロナの都市再生(龍谷大学 阿部大輔氏)

バルセロナ・モデルと呼ばれる社会政策から都市開発そして建築空間に至るまで一連をアーバンデザインと捉えて話していただいた。

第2回 東日本大震災復旧復興の現状と計画(岩手大学 三宅諭氏)

岩手県沿岸部の状況を解説していただいた。ひとことに津波被災地といっても被害の受け方も復旧復興の道筋も個々に違うことが実例を通してわかった。

第3回 東京築港と芝浦の歴史(早稲田大学 川西崇行氏)

東京ならびに日本の近代化・経済成長と関連づけて東京港の変遷をたどっていただいた。関東大震災からの復旧復興において芝浦地区の海運が大きな役割を果たし、それが東京港の整備を進める一契機となったことがわかった。

公開講座

ホームページと研究報告週間による過程と成果の開示

アーバンデザイン・スクールを始めると同時に専用のホームページを立ち上げ、以降の活動を公開した。イベントの予告と報告はもとより作業の様子や学生の作品を掲載した。アーバンデザインが身近な空間を扱い、学生が楽しんで勉強していることを伝えようとした。この専用ホームページはアーバンデザイン・スクールの記録も兼ねている。多くの方々が興味を持ってアーバンデザイン・スクールに参加されることを期待している。

芝浦アーバンデザイン・スクール専用ホームページ

http://murbanism.net/udss/blog/

学期末の2014年1月20日～ 25日アーバンデザイン・スクール研究報告週間として芝浦キャンパス玄関ホールで2013年度の成果を展示発表した。旧協働会館を題材とした木造建築の活用案36作品をパネルと模型で展示し、来場者に気に入った作品を投票してもらった。最終日の発表会には学内外の関係者の前で投票数上位6作品と都市の座ワークショップの成果をそれぞれ作者自身が解説した。都市デザイン研究室が作成した芝浦・海岸地区の都市模型と建築変遷図も出展した。2013年度アーバンデザイン・スクールの成果を通して建築から都市まで地域の生活空間全体を縦断する展覧会になった。

展覧会